

『ポケットからマウス』

ーフォト・デュオの挨拶に代えてー

林 保明

そもそもこのアメリカの旅の目的は、ソルトレーク・シティに於けるアメリカ音響学会でのプレゼンテーションだったのですが、国内の学会での発表経験が無く、英語もろくに出来ない私には助っ人が必要でした。そんな助っ人が、建築写真を本格的に撮ることを知ったのは、旅に出てからのことです。

学会発表を終えた我々は、競うがごとく写真を撮りまくったのですが、何故か私の一世一代のアメリカでの晴れ姿だけはありません。助っ人の方が、緊張のあまり撮るのを忘れたのです。

発表日の朝、リハーサル室に向かうべく、原稿の入ったパソコンを手にした私はマウスを忘れたのに気付く、慌てて部屋に戻りマウスをポケットに入れてリハーサル室に行きました。

「Hさん、パソコンは?」、「ん・・・?」今度はパソコンがありません。「あれ・・・?」ポケットを探るとマウスが出てきました。そんな私を見て助っ人は動転していたのかもしれませんが。

そんなこんなで、発表前の私は緊張の連続でした。でも何故かプレゼン本番の15分間だけはリラックスしていたような気がします。今思うとそれはアメリカと言う国の持つ、おおらかな雰囲気になせる業かも知れません。

私にとってのアメリカの第一印象は、第一歩を印したミネアポリスで決まりました。右も左も分からぬまま辿り着いた大都市の街中で、道を聞こうと声をかけた中年の男性は、親切にも我々をホテルまで案内し、フロントで予約の確認までしてくれました。行く先々で、出会った人々は皆親切に対応してくれました。

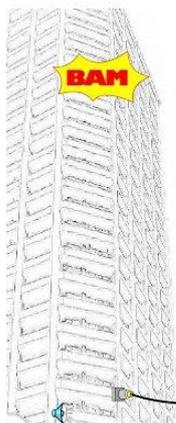
唯一、空港のボディチェックだけは厳しかったものの、スーツケースの中の「朝食のり」を見た検査官は、「私も食べている!」と冗談めかして言っていました。

うわさに聞く治安の悪さや見知らぬ土地への不安は、ミネアポリスの町に着くなり消え、むしろ楽しさだけが何時までも印象に残っています。その楽しさを記録に残したいとフォト・デュオを企画しました。

ありえない事のたとえに『ひょうたんから駒』と言う言葉がありますが、アメリカ行きからこれまでの一連の出来事はまさに『ポケットからマウス?』だったような気がします。

Uncertain Sound Generation in High-Rise Apartment

Place: Satelight of Tokyo
Sound : 70dBA -SPL(in the bed room)



『高層アパートにおける不思議音』
カットは学友の漫画家：おだ辰夫氏